

「パワー・カーボン・テクノロジー社 リチウムイオン電池用負極材工場」建設着工

5月13日、当社とGSカルテックス社の合併会社であるパワー・カーボン・テクノロジー社（以下「PCT社」）は、大韓民国 慶尚北道 亀尾（グミ）市にて、リチウムイオン電池用負極材を生産する工場の起工式を実施し、建設に着手した。

リチウムイオン電池は、電気自動車やハイブリッド自動車などの次世代環境対応車向け車載用電源として、今後、急激な市場拡大が期待されており、その性能を決定する重要な材料の一つが負極材である。PCT社では、2012年3月に工場の建設を完了し、2012年4月より試運転を、7月には商業生産を開始する予定である。

PCT社は既に2010年4月より、キャパシタ用炭素材の製造・販売事業を実施しているが、リチウムイオン電池用負極材はこれに続く新事業として立ち上げる。いずれの事業も当社で製造している高純度な石油コークスを出発原料としていることを特長としている。

（エネルギーシステム開発部 蓄電開発グループ 穂崎 憲二）

パワー・カーボン・テクノロジー社 概要

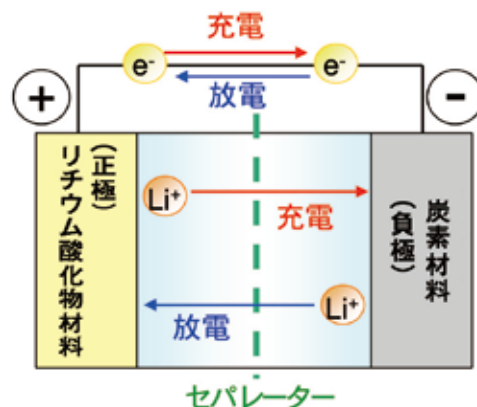
所在地：大韓民国 慶尚北道 亀尾（グミ）市
国家産業第四団地

事業概要：キャパシタ電極用炭素材の製造、販売、研究開発
リチウムイオン電池用負極材の製造、販売

出資比率：当社50%、GSカルテックス50%

既存工場生産規模：キャパシタ電極用炭素材 年産300トン

新設工場生産規模：リチウムイオン電池用負極材 年産2,000トン
（2012年7月生産開始予定）



リチウムイオン電池の原理



起工式列席者：木村社長（前列右から4人目）、
GSカルテックス社・許会長（前列左から4人目）